

様式第 1 号

令和 8 年 6 月 2 6 日

文部科学大臣 殿

学校法人千葉工業大学

理事長 瀬戸熊 修

大学等における修学の支援に関する法律第 3 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	千葉工業大学
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学) 短期大学・高等専門学校・専門学校
大学等の所在地	〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 2-17-1
学長又は校長の氏名	伊藤 穰一
設置者の名称	学校法人 千葉工業大学
設置者の主たる事務所の所在地	〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 2-17-1
設置者の代表者の氏名	理事長 瀬戸熊 修
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://chibatech.jp/

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☐ 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。

☒ 更新確認申請書の提出

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☒ この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。

☒ 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。

☒ 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

☒ この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取

り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- ☒ 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第3条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	総務部・岡野 輝	047-478-0208	soumu@chibatech.ac.jp
第2号の1	総務部・岡野 輝	047-478-0208	soumu@chibatech.ac.jp
第2号の2	総務部・岡野 輝	047-478-0208	soumu@chibatech.ac.jp
第2号の3	総務部・岡野 輝	047-478-0208	soumu@chibatech.ac.jp
第2号の4	総務部・岡野 輝	047-478-0208	soumu@chibatech.ac.jp

○添付書類

- ※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点（☒）を付けた上で、これらの書類を添付してください。（設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。）

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- ☒ 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- ☐ 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- ☒ 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

その他

- ☒ 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- ☒ 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校コード	F112310102431	学校名	千葉工業大学
設置者名	学校法人千葉工業大学		

I. ①直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	21,412,129,044円	19,394,963,550円	2,017,165,494円
申請2年度前の決算	19,139,496,388円	17,032,595,085円	2,106,901,303円
申請3年度前の決算	18,671,258,772円	16,369,575,154円	2,301,683,618円

I. ②直前の決算の貸借対照表における「運用資産－外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	76,403,122,343円	845,390,276円	75,557,732,067円

II. 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率(F)/(E)
今年度(申請年度)	7,960人	9,541人	119%
前年度	7,960人	9,560人	120%
前々年度	7,960人	9,574人	120%

大学・短期大学・高等専門学校で、II. 申請校の直近3年度の全ての収容定員充足率が8割未満の場合
申請前年度に当該学校を卒業した者について、今年度(申請年度)5月1日時点の状況について

(A) 又は (B) のいずれかを記載

・申請校の直近の進学・就職率の状況 (A) 学校基本統計を利用する場合

	卒業者数(G)	進学者数+就職者数(H)	進学・就職率(H)/(G)
申請前年度の状況	人	人	%

・申請校の直近の進学・就職率の状況 (B) 学校基本統計を利用しない場合

	進学希望者+就職希望者(I)	進学者数+就職者数(J)	進学・就職率(J)/(I)
申請前年度の状況	人	人	%

(I. ②の補足資料) 「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
		円
		円
		円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
		円
		円
		円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	千葉工業大学
設置者名	学校法人 千葉工業大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
工学部	機械工学科	夜・通信	22		45	64	13	
	宇宙・半導体工学科 ※R7.4.1 開設	夜・通信			42	64	13	
	先端材料工学科	夜・通信			65	87	13	
	電気電子工学科	夜・通信			21	43	13	
	情報通信システム工学科	夜・通信			28	50	13	
	応用化学科	夜・通信			34	56	13	
	機械電子創成工学科 ※R7.4.1 募集停止	夜・通信			42	64	13	
創造工学部	建築学科	夜・通信			54	76	13	
	都市環境工学科	夜・通信			50	72	13	
	デザイン科学科	夜・通信			68	90	13	
先進工学部	未来ロボティクス学科	夜・通信			55	77	13	
	生命科学科	夜・通信			43	65	13	
	知能メディア工学科	夜・通信			72	94	13	
情報変革科学部 ※R6.4.1 開設	情報工学科	夜・通信			40	62	13	

	認知情報科学科	夜・通信		22	44	13	
	高度応用情報科学科	夜・通信		32	54	13	
未来変革科学部 ※R6.4.1 開設	デジタル変革科学科	夜・通信		50	72	13	
	経営デザイン科学科	夜・通信		44	66	13	
情報科学部 ※R6.4.1 募集停止	情報工学科	夜・通信		41	66	13	
	情報ネットワーク学科	夜・通信		33	58	13	
社会システム科学部 ※R6.4.1 募集停止	経営情報科学科	夜・通信		41	66	13	
	プロジェクトマネジメント学科	夜・通信		59	84	13	
	金融・経営リスク科学科	夜・通信		43	68	13	
(備考) ・R6.4.1 に情報変革科学部、未来変革科学部を開設し、既設の情報科学部、社会システム科学部は募集停止している。 ・R7.4.1 に工学部宇宙・半導体工学科を開設し、既設の工学部機械電子創成工学科は募集停止している。							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

千葉工業大学ホームページ上で公開しているシラバス検索ページのキーワードで「実務経験」と入力することにより科目一覧が表示される。

<https://portal.chibatech.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	千葉工業大学
設置者名	学校法人 千葉工業大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://chibatech.jp/about/institute/disclosure/staff.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2025.6.18 ～4年以内に 終了する 会計年度の うち最終の ものに関す る定時評議 員会の終結 の時まで	法人運営に 係る全般
非常勤	株式会社役員	2025.6.18 ～4年以内に 終了する 会計年度の うち最終の ものに関す る定時評議 員会の終結 の時まで	法人運営に 係る全般
(備考) 学外理事は6名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	千葉工業大学
設置者名	学校法人 千葉工業大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 当該年度に開講する全科目について以下の項目を必須事項としたシラバスを作成している。また、作成にあたっては、全教員に「シラバス作成要領」を配付すると共に、執筆者以外の教員が観点別チェックを行う「第三者チェック」を行ったうえで、公開することとしている。 また、公開にあたっては、学生のみならず学外者も閲覧可能となるよう大学のホームページにシラバス検索ページを設置している。(作成完了は前年度2月末、公開は3月上旬) [シラバス作成上の必須項目] ・授業科目の目的(アクティブラーニングの要素が授業内容に含まれる場合には、該当項目にチェックする。例:問題解決型、グループワーク・ディスカッション、プレゼン、フィールドワーク、演習・実験・演習など) ・注意事項・学習アドバイス ・到達目標 ・評価基準(多面的な観点で評価されるよう評価項目と評価の割合を記入する。) ・各回の授業内容、事前事後学習内容(各回の授業内容には、課題や授業全体に対するフィードバックの方法も記入する。事前事後学習内容には授業外学習を行う内容と学習に要する時間数も記入する。) ※実務経験のある教員による授業科目については、「実務経験の種類と授業への活用状況」を記入要領に明記し、該当する場合には、必ずシラバスに記入するようにしている。	
授業計画書の公表方法	千葉工業大学ホームページ シラバス検索ページ https://portal.chibatech.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)		
成績評価及び単位の認定等については、全ての学部で「履修規程」を制定し、適正に管理している。		
なお、科目毎の評価基準については、全ての科目でシラバスを作成しており、「評価基準」の項目で示している。学生には授業第1回目において担当教員から当該シラバスにより、必ず評価基準も説明することとしている。また、この評価基準も教員には多面的な観点から設定するようシラバス作成要領に示しており、評価の項目と評価の割合を記入する形式になっている。		
[単位授与及び成績の評価（各学部履修規程第10条）]		
第10条 授業科目を履修し、その試験等により合格と判定された者には、所定の単位を与える。		
評価区分	表示希望	評価
100点～90点	S	合格
89点～80点	A	合格（但し、成績証明書においては、100点～80点）
79点～70点	B	合格
69点～60点	C	合格
59点以下	D	不合格
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。		
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)		
学生の成績を総合的に評価するための値として、全ての学部で「履修規程」上に成績評価の評点区分に基づき全学期の平均点となる「累積GPA」及び当該学期における平均点となる「セメスターGPA」を算出し、適切な履修指導及び進路指導を行うために使用することを規定している。成績評価及び単位の認定等については、全ての学部で「履修規程」を制定し、適正に管理している。（学生には学部・学年毎に全体のGPA分布と中央値を公表して、全体における成績の位置付けが明確になるよう指導している。）		
[GPAの計算方法]		
(1) セメスターGPAの計算方法		
（当該セメスターの評価S、A、B、Cの科目の合計単位数をそれぞれs、a、b、cとし、履修登録科目の合計単位数（不合格の科目の単位数を含む）をnとするとき $\text{セメスターGPA} = 4s + 3a + 2b + c \div n$		
(2) 累積GPAの計算方法		
（第1セメスターから当該セメスターまでの評価S、A、B、Cの科目の累積合計単位数をそれぞれσ、α、β、γとし、履修登録科目の累積合計単位数（不合格の科目の単位数を含む）をNとするとき $\text{累積GPA} = 4\sigma + 3\alpha + 2\beta + \gamma \div N$		
[単位授与及び成績の評価（各学部履修規程第10条第2項）]		
第10条第2項 授業科目の成績評価及びGPAポイントは、次の評点区分に基づき行う。但し、S評価については、GPAポイントの運用上で必要な成績評価として、学内のみで使用するものとする。		
評価区分	表示希望	GPAポイント
100点～90点	S	4
89点～80点	A	3
79点～70点	B	2
69点～60点	C	1
59点以下	D	0
客観的な指標の算出方法の公表方法	千葉工業大学ホームページ 履修・修学について https://kmsk.is.chibatech.ac.jp/portal/eng/common_2025/study.pdf#page=2	

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
	(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」を基軸として、全学的な教育理念を設定すると共に、それらを踏まえて全学部・学科においてディプロマ・ポリシーを設定している。また、全学部のディプロマ・ポリシーには、「学生が卒業時点において身に付けるべき能力」を観点別に示すと共に、その前段ではカリキュラム上で定める所定単位として教養科目 35 単位以上、専門科目 89 単位以上（※1、※2、※3）の合計 124 単位以上を修得することを定めている。更に、カリキュラム・ポリシーでは、ディプロマ・ポリシーに定める能力の到達度評価方針として、学部共通的に以下のとおり定めている。（これらに加えて、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。） ※1：創造工学部建築学科、都市環境工学科は教養科目 36 単位以上、専門科目 88 単位以上と定め、デザイン科学科は教養科目 36 単位以上、専門科目 84 単位以上と定めている。 ※2：先進工学部生命科学科は教養科目 36 単位以上、専門科目 88 単位以上と定めている。 ※3：情報科学部及び社会システム科学部（2024. 4. 1 から募集停止）は教養科目 36 単位以上、専門科目 88 単位以上と定めている。 〔能力達成度の評価方針〕 ・全ての必修科目を修得すること。 ・コミュニケーションスキル分野で 6 単位以上を取得すること。 ・国際理解分野の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から 2 単位以上を取得すること。 ・人間・社会・自然の理解分野の学部指定科目群 1 から 6 単位以上、学部指定科目群 2 から 4 単位以上を取得すること。 ・教養特別科目分野から 1 単位以上を取得すること。 ・総合分野の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から 2 単位以上を取得すること。 加えて、各学部・学科のディプロマ・ポリシーの達成度（学生の学修成果）の評価方針と具体的な評価方法（アセスメント・ポリシー）を全学的に定め、「機関レベル」、「教育課程レベル」、「科目レベル」で評価し、定期的に改善することとしている。
卒業の認定に関する 方針の公表方法	千葉工業大学ホームページで学部別に公開している。 ・工学部 https://chibatech.jp/faculty/#list1 ・創造工学部 https://chibatech.jp/faculty/#list2 ・先進工学部 https://chibatech.jp/faculty/#list3 ・情報変革科学部 https://chibatech.jp/faculty/#list4 ・未来変革科学部 https://chibatech.jp/faculty/#list5 ・情報科学部 https://chibatech.jp/faculty/#list6 ・社会システム科学部 https://chibatech.jp/faculty/#list7 ・アセスメント・ポリシー https://chibatech.jp/about/institute/disclosure/assessment_policy.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	千葉工業大学
設置者名	学校法人 千葉工業大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://chibatech.jp/about/institute/disclosure/circumstances.html
収支計算書又は損益計算書	https://chibatech.jp/about/institute/disclosure/circumstances.html
財産目録	https://chibatech.jp/about/institute/disclosure/circumstances.html
事業報告書	https://chibatech.jp/about/institute/disclosure/report.html
監事による監査報告（書）	https://chibatech.jp/about/institute/disclosure/circumstances.html

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：	対象年度：	）
公表方法：		
中長期計画（名称：	対象年度：	）
公表方法：		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法： https://chibatech.jp/about/institute/disclosure/evaluation/inspection.html

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法： https://chibatech.jp/about/institute/disclosure/evaluation/jihe.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法：https://chibatech.jp/about/institute/disclosure/purpose.html） （概要） 工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、専門知識を応用する工学分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://chibatech.jp/faculty/#list1） （概要） 工学部は、社会ならびに産業界の工学分野およびその学際領域において、建学の精神である世界文化に技術で貢献する人材の育成を目的とし、卒業時点で学生が身につけるべき以下の 6 項目の能力を定め、これらの能力の獲得とカリキュラム上で定める所定単位（教養科目 35 単位以上、専門科目 89 単位以上、合計 124 単位以上）の取得をもって、人材像の達成とみなし、学士（工学）を授与する。 〔工学部の学生が卒業時点において身に付けるべき能力〕 (1) 自然科学に関する基礎学力に裏付けられた工学分野での専門基礎知識と基礎技術を有し、技術者として必要な教養を身につけている。 (2) 問題解決に必要な専門知識や技術を修得するため、自ら継続的に学習する能力を身につけている。 (3) 専門知識を活用して工学的な観点から問題解決する能力を身につけている。 (4) 自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけている。 (5) グループでの共同作業を適確に実行し、適切な協力関係をつくり上げてゆく能力を身につけている。 (6) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://chibatech.jp/faculty/#list1） （概要） 工学部のディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得させるために、以下に示す教育課程編成の基本方針、教育課程編成における 6 項目の具体的な方針、及び能力到達度の評価方針を定める。 〔教育課程編成の基本方針〕 厳選した少数の科目による教育課程編成を基本とし、履修科目の違いによらず、ディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得できるよう科目を配置する。また、教養科目群及び学科別専門科目群毎に学修・教育目標を設定し、各目標を達成するうえで必要な科目の体系と順次性をカリキュラムツリー及び科目ナンバリングにより明確化する。 〔教育課程編成における具体的方針〕 (1) 自ら継続的に学習することができるように、初年次教育及びキャリアデザイン科目を必修科目に位置付けて主体的に学ぶ手法を修得させ、後続する教養・専門科目群において主体的な学びの場を提供する。 (2) 自然科学に関する基礎学力に裏付けられた工学分野での専門基礎知識と基礎技術を有

し、工学の各専門分野のものづくりやシステムづくりに活用できるように、科目群ごとに演習科目を効果的に配置する。

(3) 専門知識を活用して工学的な観点から問題解決ができるように、学修の初期段階に課題探究セミナーを置き、その後に実験・演習・実習・ゼミナールなど課題解決型の科目を適切に配置する。

(4) 論理的に表現・説明する能力を有し、日本語ならびに英語で情報を伝達できるように、実践的な日本語・英語スキルを高める科目を設置する。

(5) グループでの共同作業を計画的にかつ適確に実行し、適切な協力関係をつくり上げてゆくことができるように協同学習の場を提供する。

(6) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解できるように、技術者倫理に関する科目を配置すると共に、各専門科目においても倫理性・社会的責任を意識させる。

〔能力到達度の評価方針〕

ディプロマ・ポリシーで定めた各能力の修得については、以下の共通要件に加え、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。

- ・全ての必修科目を修得すること。
- ・コミュニケーションスキル分野で6単位以上を取得すること。
- ・国際理解分野の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から2単位以上を取得すること。
- ・人間・社会・自然の理解分野の学部指定科目群1から6単位以上、学部指定科目群2から4単位以上を取得すること。
- ・教養特別科目分野から1単位以上を取得すること。
- ・総合分野の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から2単位以上を取得すること。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://admission.chibatech.ac.jp/nyushi/policy/>)

(概要)

工学部は、社会とりわけ産業界の工学分野および工学の研究領域において、本学の建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」人材を育成します。その人材の資質とは、自然科学の基礎学力に裏付けられた工学分野の専門知識と基礎技術を有し、技術者として必要な教養を身につけていることです。学んだ専門知識と技術を活用して工学的観点から問題を解決する能力を身につけていること、さらに自ら継続的に学習する姿勢を持つことも必要です。また、思考・判断のプロセスを説明するためのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、グループでの共同作業を適確に実行し、協力関係をつくり上げていく能力もなくしてはなりません。それらを形成するとともに、専門技術者として倫理観を持ち、社会的責任を果たせる人材を社会へと送り出します。

〈求める学生像〉

1. 理数系科目の基礎学力を身につけている人
2. わが国を支える工学の基盤分野に挑む意欲を持った人
3. 工学分野のものづくりやシステムづくりに興味がある人

【入試に係る取組・改善状況】

本学の入試は様々な合否判定の方式を用意し、多様な学生を受け入れる工夫をしています。令和8年度入試の一般選抜においては「5教科基準点型入学試験（共通テスト利用）」を実施し、多科目をバランスよく学習してきた受験生を受け入れることができました。さらに令和9年度一般選抜では、コンピュータを使って実施する（CBT方式）、SC日程入学試験を新設します。本学が定めた全国各地の会場（テストセンター）で受験することができるため、受験生の負担軽減につながると考えています。

学部等名 創造工学部
教 育 研 究 上 の 目 的 (公 表 方 法 : https://chibatech.jp/about/institute/disclosure/purpose.html#hdgLg3) (概要) 創造工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、創造性を要する工学分野およびその学際的領域において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://chibatech.jp/faculty/#list2) (概要) 創造工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、創造性を要する工学分野およびその学際的領域において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。そのために、以下の6項目の卒業時点で学生が身に付けるべき能力を定める。これらの能力の獲得とカリキュラムで定める所定単位(教養科目36単位以上、専門科目88単位以上または84単位以上、合計124単位以上)の取得をもって人材像の達成とみなし、学士(工学)を授与する。 [創造工学部の学生が卒業時点において身に付けるべき能力] (1) 人文科学・社会科学・自然科学の主要分野の基盤となる教養を身につけ、それらを創造工学に関する知識・技能に結び付けて考える能力を身につけている。 (2) 課題解決に必要な基礎的な専門知識・技能を修得するため、自ら恒常的に学習する習慣とそのために必要な能力を身につけている。 (3) 技術・計画・設計やデザインの融合による創造工学に関する基礎的な知識・技能と提案力を身につけている。 (4) 自らの思考・判断のプロセスを論理的に説明し、伝達するためのプレゼンテーションの基礎的能力、さらにそれらをグローバルな局面で創造的に活用できる能力を身につけている。 (5) グループでの共同作業を適確に実行し、適切な協力関係をつくり上げてゆくコミュニケーションの基礎的能力を身につけている。 (6) 専門技術者として守るべき倫理と負うべき社会的責任を理解している。
教 育 課 程 の 編 成 及 び 実 施 に 関 す る 方 針 (公 表 方 法 : https://chibatech.jp/faculty/#list) (概要) 創造工学部のディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得させるために、以下に示す教育課程編成の基本方針、教育課程編成における6項目の具体的な方針、及び能力到達度の評価方針を定める。 [教育課程編成の基本方針] 厳選した少数の科目による教育課程編成を基本とし、履修科目の違いによらず、ディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得できるよう科目を配置する。また、教養科目群及び学科別専門科目群毎に学修・教育目標を設定し、各目標を達成するうえで必要な科目の体系と順次性をカリキュラムツリー及び科目ナンバリングにより明確化する。 [教育課程編成における具体的方針] (1) 人文科学・社会科学・自然科学の主要分野の基盤となる教養を身につけ、それらを創造工学に関する知識・技能に結び付けて考える能力を身につけることができるように科目群ごとに学修目標を設定し演習科目を効果的に配置する。

(2) 課題解決に必要な専門知識や技術を恒常的に修得し続けることができるようにする主体的な学びの場を提供し、初年次教育及びキャリアデザイン科目を必修科目に位置付けて主体的に学ぶ手法を修得させ、後続する教養・専門科目群で学習し続ける意欲と態度を習慣とさせる。

(3) 技術・計画・設計やデザインの融合による創造工学に関する基礎的な知識・技能を体得させ、ものづくり・仕組みづくり・空間づくり・都市づくり・国土づくりに活用できるようにするため、工学的な基礎科目群と計画・設計やデザインの専門科目群の下で演習を多用するコアカリキュラムを展開する。また、汎用的技能養成と創造的視点からの提案力強化を主眼として卒業研究または卒業設計・卒業製作を位置づける。

(4) 図的表現と言語表現の双方を用いて専門的な情報を明晰に伝達・説明できるようにし、グローバルな局面でも基本的なコミュニケーションを可能にさせる。そのために、図的表現力を育む科目と論理的思考力・明解な表現力を高める日本語科目、実用的な英語スキルを得る科目を配置する。

(5) 個人の作業のみならず、共同作業と適切な協力関係を通じてグループで創造的な成果を得る経験を積ませる。そのため、低学年に課題探究セミナーを配置し、専門科目の演習科目ではグループ単位に総合的・創造的な課題を課して、テーマやプロセス、成果を共有できるように科目を配置する。

(6) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解させ、遵守できるようにする。そのため、学内でのモラル教育と各科目でのルールへの遵守を徹底し、学修の過程の中で社会的ルールを守ることが習慣化させる。また、技術者倫理に関する科目を配置する。

〔能力到達度の評価方針〕

ディプロマ・ポリシーで定めた各能力の修得については、以下の共通要件に加え、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。

- ・全ての必修科目を修得すること。
- ・コミュニケーションスキル分野で6単位以上を取得すること。
- ・国際理解分野の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から2単位以上を取得すること。
- ・人間・社会・自然の理解分野の学部指定科目群1から6単位以上、学部指定科目群2から4単位以上を取得すること。
- ・教養特別科目分野から1単位以上を取得すること。
- ・総合分野の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から2単位以上を取得すること。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://admission.chibatech.ac.jp/nyushi/policy/>)

(概要)

創造工学部は、都市計画、建築・空間設計、インテリア設計、製品デザインなど、創造性を要する工学分野及びその学際的領域において世界文化に貢献する人材を育成します。その人材の資質とは、技術・計画・設計やデザインの融合による創造工学に関する基礎的な知識・技能と提案力を持っていることだと考えています。人文科学・社会科学・自然科学の主要分野の基盤となる教養を身につけ、それらを創造工学に関する知識・技能に結び付けて考える能力も必要です。将来、課題解決に必要な基礎的な専門知識・技能を修得するため、自ら恒常的に学習する習慣も欠かせません。また、思考・判断のプロセスを論理的に説明するためのプレゼンテーション能力、さらにそれらをグローバルな局面で創造的に活用できる能力、グループでの共同作業を適確に実行し、協力関係をつくり上げていくコミュニケーション能力も重視しています。それらを形成するとともに、専門技術者として倫理観を持ち、社会的責任を果たせる人材を社会へと送り出します。

〈求める学生像〉

1. 理数系科目の基礎学力を身につけている人

2. 技術・計画・設計やデザインの融合による、創造的な工学領域に興味がある人
3. ものづくり・仕組みづくり・空間づくり・都市づくりにおいて、創造力にあふれた新しいデザインを提案したいと望む人

【入試に係る取組・改善状況】

本学の入試は様々な合否判定の方式を用意し、多様な学生を受け入れる工夫をしています。令和8年度入試の一般選抜においては「5教科基準点型入学試験（共通テスト利用）」を実施し、多科目をバランスよく学習してきた受験生を受け入れることができました。さらに令和9年度一般選抜では、コンピュータを使って実施する（CBT方式）、SC日程入学試験を新設します。本学が定めた全国各地の会場（テストセンター）で受験することができるため、受験生の負担軽減につながると考えています。

学部等名 先進工学部

教 育 研 究 上 の 目 的 （ 公 表 方 法 ：
<https://chibatech.jp/about/institute/disclosure/purpose.html#hdlg5>）

（概要）

先進工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、科学技術における先進的な分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：<https://chibatech.jp/faculty/#list3>）

（概要）

先進工学部は、人間の生活における利便性を向上させ、工学分野における先進的な領域を開拓していく学際領域で、建学の精神である世界文化に技術で貢献する人材を育成することを目的とし、以下のとおり5項目の卒業時点で学生が身に付けるべき能力を定め、これら能力の獲得とカリキュラム上で定める所定単位（教養科目と専門科目の各要件を満足し、合計124単位以上）の取得をもって、人材像の達成とみなし、学士（工学）を授与する。

※先進工学部未来ロボティクス学科、知能メディア工学科は教養科目35単位以上、専門科目89単位以上に定め、生命科学科は教養科目36単位以上、専門科目88単位以上に定めている。

〔先進工学部の学生が卒業時点において身に付けるべき能力〕

- (1) 工学分野での基礎的な知識と技術を有し、それを先進的領域や学際領域に応用する能力を身につけている。
- (2) 課題解決に必要な専門的知識や技術を修得するため、自ら継続的・論理的に学習する能力を身につけている。
- (3) 科学技術の進歩やグローバル化など、時代の変化に応じた視野と総合的な知識や技術を応用して課題解決を図る能力を備えている。
- (4) 自らの思考や判断のプロセスを論理的に説明できるプレゼンテーション能力、他者とのコミュニケーション能力、グループでの共同作業においてチームワークやリーダーシップを発揮し、実行できる能力を身につけている。
- (5) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。

教 育 課 程 の 編 成 及 び 実 施 に 関 す る 方 針 （ 公 表 方 法 ：
<https://chibatech.jp/faculty/#list3>）

(概要) 先進工学部のディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得させるために、以下に示す教育課程編成の基本方針、教育課程編成における 5 項目の具体的な方針、及び能力到達度の評価方針を定める。 [教育課程編成の基本方針] 厳選した少数の科目による教育課程編成を基本とし、履修科目の違いによらず、ディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得できるよう科目を配置する。また、教養科目群及び学科別専門科目群毎に学修・教育目標を設定し、各目標を達成するうえで必要な科目の体系と順次性をカリキュラムツリー及び科目ナンバリングにより明確化する。 [教育課程編成における具体的方針] (1) 工学分野での基礎的な知識と技術を有し、それを先進的領域や学際領域に応用できるように、共通教養科目と専門基礎科目、学科別コアカリキュラムに基づく専門科目を体系的に配置する。 (2) 自ら継続的・論理的に学習できるように、初年次教育及びキャリアデザイン科目を必修に位置付けて主体的に学ぶ手法を修得させ、後続する教養・専門科目群において、主体的な学びの場を提供する。 (3) 生命科学・ロボティクス・知能メディア工学の各領域における先進的で高度な知識と技能を身に付けるための演習科目と、自発的な取り組みを誘発するための課題探究セミナーを配置し、更に専門知識や技術を最大限応用することを主眼とした卒業研究を配置する。 (4) 論理的に表現・説明する能力を有し、日本語と英語によるコミュニケーションができるようにするための実践的な日本語・英語科目、およびグループでの共同作業が的確に実行でき、他者との適切な協力関係を作り上げるための協同学習を行う科目を設ける。 (5) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解しそれを遵守できるように、技術者倫理に関する科目を配置し、各専門科目においても倫理性や社会的責任を意識させる。 [能力到達度の評価方針] ディプロマ・ポリシーで定めた各能力の修得については、以下の共通要件に加え、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。 ・全ての必修科目を修得すること。 ・コミュニケーションスキル分野で 6 単位以上を取得すること。 ・国際理解分野の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から 2 単位以上を取得すること。 ・人間・社会・自然の理解分野の学部指定科目群 1 から 6 単位以上、学部指定科目群 2 から 4 単位以上を取得すること。 ・教養特別科目分野から 1 単位以上を取得すること。 ・総合分野の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から 2 単位以上を取得すること。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://admission.chibatech.ac.jp/nyushi/policy/)
(概要) 先進工学部は、人間の生活における利便性を向上させ、工学分野における先進的な領域を開拓していく学際領域で、本学の建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」人材を育成します。その人材の資質とは、工学分野での基礎的な知識と技術を有し、それを先進的領域や学際領域に応用する能力を身につけていることだと考えています。課題解決に必要な専門的知識や技術を修得するため、自ら継続的・論理的に学習する姿勢を持つことも必要です。また、科学技術の進歩やグローバル化等、時代の変化に応じた視野と総合的な知識や技術を応用して課題解決を図る能力も備えていなければなりません。自らの思考や

判断のプロセスを論理的に説明できるプレゼンテーション能力、他者とのコミュニケーション能力、グループでの共同作業においてチームワークやリーダーシップを発揮し、実行できる能力を身につけていることも重要です。それらを形成したうえで、専門技術者として倫理観を持ち、社会的責任を果たせる人材を社会へと送り出します。

〈求める学生像〉

1. 理数系科目の基礎学力を身につけている人
2. 工学の先進的領域や学際領域を学びたいという動機と意志を持った人
3. 特に生命科学・ロボティクス・知能メディア工学に強い興味がある人

【入試に係る取組・改善状況】

本学の入試は様々な可否判定の方式を用意し、多様な学生を受け入れる工夫をしています。令和8年度入試の一般選抜においては「5教科基準点型入学試験（共通テスト利用）」を実施し、多科目をバランスよく学習してきた受験生を受け入れることができました。さらに令和9年度一般選抜では、コンピュータを使って実施する（CBT方式）、SC日程入学試験を新設します。本学が定めた全国各地の会場（テストセンター）で受験することができるため、受験生の負担軽減につながると考えています。

学部等名 情報変革科学部

教 育 研 究 上 の 目 的 （ 公 表 方 法 ：
<https://chibatech.jp/about/institute/disclosure/purpose.html#hdgL11>
 ）

（概要）

情報変革科学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、情報社会の変革に対応して世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：<https://chibatech.jp/faculty/#list4>）

（概要）

情報変革科学部は、情報社会の変革に対応して世界文化に貢献し得る人材の育成を目的とし、卒業時点で学生が身につけるべき以下の5項目の能力を定め、これらの能力の獲得とカリキュラム上で定める所定単位（教養科目35単位以上、専門科目89単位以上、合計124単位以上）の取得をもって、人材像の達成とみなし、学士（工学）を授与する。

〔情報変革学部の学生が卒業時点において身に付けるべき能力〕

(1) 情報学分野での基礎的な知識と技術を有し、人間力や理論的手法に基づいた思考を涵養することで、それを多様な分野に応用する能力を身につけている。

(2) 課題解決に必要な専門的知識や技術を修得するため、自ら継続的・論理的に学習する能力を身につけている。

(3) 情報技術の進歩やグローバル化など、社会変革に対応出来る幅広い視野と総合的な知識・技術を応用して、自ら課題解決を図る能力を備えている。

(4) 自らの思考や判断のプロセスを論理的に説明できるプレゼンテーション能力、グループでの共同作業を適確に実行し、適切な協力関係を作り上げてゆくコミュニケーション能力を身につけている。

(5) 情報学分野の専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。

教 育 課 程 の 編 成 及 び 実 施 に 関 す る 方 針 （ 公 表 方 法 ：
<https://chibatech.jp/faculty/#list4>）

(概要) 情報変革学部のディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得させるために、以下に示す教育課程編成の基本方針、教育課程編成における4項目の具体的な方針、及び能力到達度の評価方針を定める。 [教育課程編成の基本方針] (1) 基盤となる教養と基礎的な専門知識・技術を応用し、情報学分野に活用できるように、共通教養科目と専門基礎・専門科目を体系的に配置する。 (2) 論理的に表現・説明する能力を有し、日本語と英語によるコミュニケーションができるように、実践的な日本語・英語の能力を高める科目を配置する。また、国際感覚を習慣的に意識づけるために専門科目内にも英語科目を配置する。 (3) グループでの共同作業が的確に実行できるよう、初期段階から演習系科目を配置し、更に後続する専門科目内に効果的に実験・実習科目を配置する。また、ゼミナール系科目により共同学習の場を設ける。 (4) 情報学分野の専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解しそれを遵守できるように、技術者倫理に関する科目を配置する。 [能力到達度の評価方針] ディプロマ・ポリシーで定めた各能力の修得については、以下の共通要件に加え、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。 全ての必修科目を修得すること。 コミュニケーションスキル分野で6単位以上を取得すること。 国際理解分野の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から2単位以上を取得すること。 人間・社会・自然の理解分野の学部指定科目群1から6単位以上、学部指定科目群2から4単位以上を取得すること。 教養特別科目分野から1単位以上を取得すること。 総合分野の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から2単位以上を取得すること。	入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://admission.chibatech.ac.jp/nyushi/policy/)
(概要) 情報変革科学部は最先端のサイバー×フィジカル社会を支える情報科学の基盤技術や応用技術について、ハードウェアとソフトウェアの両面からアプローチし、変化の激しい世界での情報通信技術を設計・開発できる人材を育成します。自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、情報に関する科学的な見方や考え方を基盤として、情報技術に関する専門知識や技術を習得し、情報社会の分野において世界文化に貢献し得る人材を養成します。 〈求める学生像〉 1. 最先端の情報科学の基盤技術や応用技術に興味のある人 2. 社会の様々な課題に情報処理の技術で貢献したい人 3. 変化の激しい情報処理分野で継続的に技術を身につける強い意志を持った人 【入試に係る取組・改善状況】 本学の入試は様々な可否判定の方式を用意し、多様な学生を受け入れる工夫をしています。令和8年度入試の一般選抜においては「5教科基準点型入学試験（共通テスト利用）」を実施し、多科目をバランスよく学習してきた受験生を受け入れることができました。さらに令和9年度一般選抜では、コンピュータを使って実施する（CBT方式）、SC日程入学試験を新設します。本学が定めた全国各地の会場（テストセンター）で受験することができる	

ため、受験生の負担軽減につながると考えています。

学部等名 未来変革科学部

教 育 研 究 上 の 目 的 (公 表 方 法 :
<https://chibatech.jp/about/institute/disclosure/purpose.html#hdgG13>
)

(概要)

未来変革科学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、経営活動の変革に対応して世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: <https://chibatech.jp/faculty/#list5>)

(概要)

未来変革科学部は、経営活動の変革に対応して世界文化に貢献し得る人材の育成を目的とし、卒業時点で学生が身につけるべき以下の5項目の能力を定め、これらの能力の獲得とカリキュラム上で定める所定単位(教養科目35単位以上、専門科目89単位以上、合計124単位以上)の取得をもって、人材像の達成とみなし、学士(工学)を授与する。

[未来変革学部の学生が卒業時点において身に付けるべき能力]

(1)経営工学又はデジタル学分野での基礎的な知識と技術を有し、理論的手法に基づいた思考を涵養することで、それを多様な分野に応用する能力を身につけている。

(2)課題解決に必要な専門的知識や技術を修得するため、自ら継続的・論理的に学習する能力を身につけている。

(3)デジタル技術の進歩やグローバル化など、社会変革に対応出来る幅広い視野と総合的な知識・技術を応用して、自ら課題解決を図る能力を備えている。

(4)自らの思考や判断のプロセスを論理的に説明できるプレゼンテーション能力、グループでの共同作業を適確に実行し、適切な協力関係を作り上げてゆくコミュニケーション能力を身につけている。

(5)経営工学又はデジタル学分野の専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。

教 育 課 程 の 編 成 及 び 実 施 に 関 す る 方 針 (公 表 方 法 :
<https://chibatech.jp/faculty/#list5>)

(概要)

未来変革学部のディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得させるために、以下に示す教育課程編成の基本方針、教育課程編成における4項目の具体的な方針、及び能力到達度の評価方針を定める。

[教育課程編成の基本方針]

(1)基盤となる教養と基礎的な専門知識・技術を応用し、情報学分野に活用できるように、共通教養科目と専門基礎・専門科目を体系的に配置する。

(2)論理的に表現・説明する能力を有し、日本語と英語によるコミュニケーションができるように、実践的な日本語・英語能力を高める科目を配置する。また、他者との建設的な討論や議論ができ、グローバルな環境でもプロジェクトを主導的に進めることができるよう、効果的な演習科目を配置する。

(3)グループによる共同作業により適切な問題解決が図れるよう、グループ演習を配置し、更に後続する専門科目内には効果的に実験・実習科目・ゼミナールを配置して共同学習の場を設ける。

(4) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、それを遵守できるように、技術者倫理に関する科目を配置する。 〔能力到達度の評価方針〕 ディプロマ・ポリシーで定めた各能力の修得については、以下の共通要件に加え、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。 全ての必修科目を修得すること。 コミュニケーションスキル分野で6単位以上を取得すること。 国際理解分野の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から2単位以上を取得すること。 人間・社会・自然の理解分野の学部指定科目群1から6単位以上、学部指定科目群2から4単位以上を取得すること。 教養特別科目分野から1単位以上を取得すること。 総合分野の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から2単位以上を取得すること。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://admission.chibatech.ac.jp/nyushi/policy/)
(概要) 未来変革科学部では、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、経営活動に関する科学的な見方や考え方を基盤として、様々な状況に対応できる知識と技術を習得し、経済社会の分野において世界文化に貢献し得る人材を養成します。 〈求める学生像〉 1. 新しいことにチャレンジしたい、自分の可能性を高めたいという意欲を持った人 2. 社会変革・社会貢献したい人 3. 高等学校段階までの基礎学力及び高い倫理観と豊かな人間性を身につけている人 【入試に係る取組・改善状況】 本学の入試は様々な可否判定の方式を用意し、多様な学生を受け入れる工夫をしています。令和8年度入試の一般選抜においては「5教科基準点型入学試験（共通テスト利用）」を実施し、多科目をバランスよく学習してきた受験生を受け入れることができました。さらに令和9年度一般選抜では、コンピュータを使って実施する（CBT方式）、SC日程入学試験を新設します。本学が定めた全国各地の会場（テストセンター）で受験することができるため、受験生の負担軽減につながると考えています。

学部等名 情報科学部（2024.4.1から募集停止）
教 育 研 究 上 の 目 的 （ 公 表 方 法 ： https://chibatech.jp/about/institute/disclosure/purpose.html#hdgLg7）
(概要) 情報科学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として社会の変化と進展に対応し、また、守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、情報処理分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://chibatech.jp/faculty/#list6 ）

(概要) 情報科学部は、情報システム、ネットワーク、メディア処理などの多様な情報処理分野において、建学の精神である世界文化に技術で貢献する人材を育成することを目的とし、以下の 5 項目の卒業時点で学生が身に付けるべき能力を定め、これら能力の獲得とカリキュラム上で定める所定単位（教養科目 36 単位以上、専門科目 88 単位以上、合計 124 単位以上）の取得をもって、人材像の達成とみなし、学士（情報科学）を授与する。 〔情報科学部の学生が卒業時点において身に付けるべき能力〕 (1) 情報科学分野での基礎的な知識と技術を有し、理論的手法に基づいた思考を涵養することで、それを多様な情報処理分野に応用する能力を身につけている。 (2) 課題解決に必要な専門的知識や技術を修得するため、自ら継続的・論理的に学習する能力を身につけている。 (3) 科学技術の進歩やグローバル化など、社会の変化と進展に対応出来る幅広い知識を修得し、自ら問題解決策を見出す能力を備えている。 (4) 自らの思考や判断のプロセスを論理的に説明できるプレゼンテーション能力、グループでの共同作業を適確に実行し、適切な協力関係を作り上げてゆくコミュニケーション能力を身につけている。 (5) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://chibatech.jp/faculty/#list6）
(概要) 情報科学部のディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得させるために、以下に示す教育課程編成の基本方針、教育課程編成における 5 項目の具体的な方針、及び能力到達度の評価方針を定める。 〔教育課程編成の基本方針〕 厳選した少数の科目による教育課程編成を基本とし、履修科目の違いによらず、ディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得できるよう科目を配置する。また、教養科目群及び学科別専門科目群毎に学修・教育目標を設定し、各目標を達成するうえで必要な科目の体系と順次性をカリキュラムツリー及び科目ナンバリングにより明確化する。 〔教育課程編成における具体的方針〕 (1) 基盤となる教養と基礎的な専門知識・技術を応用し、情報科学分野に活用できるように、共通教養科目と専門基礎・専門科目を体系的に配置する。 (2) 自ら継続的・論理的に学習できるように、初年次教育及びキャリアデザイン科目を必修に位置付けて主体的に学ぶ手法を修得させ、後続する教養・専門科目群において、主体的な学びの場を提供する。 (3) 論理的に表現・説明する能力を有し、日本語と英語によるコミュニケーションができるように、実践的な日本語・英語の能力を高める科目を配置する。また、国際感覚を習慣的に意識づけるために専門科目内にも英語科目を配置する。 (4) グループでの共同作業が的確に実行できるよう、初期段階から課題探究セミナーを配置し、更に後続する専門科目内に効果的に演習科目を配置すると共にゼミナールなど共同学習の場を設ける。 (5) 情報系技術者やネットワーク系技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解しそれを遵守できるように、技術者倫理に関する科目を配置する。 〔能力到達度の評価方針〕 ディプロマ・ポリシーで定めた各能力の修得については、以下の共通要件に加え、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。 ・全ての必修科目を修得すること。

・コミュニケーションスキル分野で6単位以上を取得すること。 ・国際理解分野の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から2単位以上を取得すること。 ・人間・社会・自然の理解分野の学部指定科目群1から6単位以上、学部指定科目群2から4単位以上を取得すること。 ・教養特別科目分野から1単位以上を取得すること。 ・総合分野の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から2単位以上を取得すること。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://admission.chibatech.ac.jp/nyushi/policy/)
(概要) 情報科学部は、情報システム、ネットワーク、メディア処理等、多様な情報処理分野において、本学の建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」人材を育成します。その人材の資質とは、情報科学分野の基礎的な知識と技術を有し、確かな理論に基づいて応用できることだと考えています。高度情報化とグローバル化が進展し続ける中で、情報処理分野の新たな課題に対し、自ら問題解決策を見出す能力が求められます。そのためには、学んだ専門的知識や技術を基に、さらに自ら継続的・論理的に学習する姿勢を持つことが必要です。また、思考・判断のプロセスを説明するためのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、グループでの共同作業を適確に実行し、協力関係をつくり上げていく能力もなくてはなりません。それらを形成するとともに、専門技術者として倫理観を持ち、社会的責任を果たせる人材を社会へと送り出します。 〈求める学生像〉 1. 情報システム、ネットワーク、メディア処理等、情報処理の技術に興味のある人 2. 社会の様々な課題に情報処理の技術で貢献したい人 3. 変化の激しい情報処理分野で継続的に技術を身につける強い意志を持った人 ※令和9年度入試は募集なし

学部等名 社会システム科学部 (2024. 4. 1 から募集停止)
教 育 研 究 上 の 目 的 (公 表 方 法 : https://chibatech.jp/about/institute/disclosure/purpose.html#hdgLg9)
(概要) 社会システム科学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、分野横断的な学問領域を基礎とし、社会システムやマネジメント手法の分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://chibatech.jp/faculty/#list7)
(概要) 社会システム科学部は、システム科学、経営工学、社会科学、情報工学等の分野横断的な学問領域で、建学の精神である世界文化に技術で貢献する人材を育成することを目的とし、以下のとおり5項目の卒業時点で学生が身に付けるべき能力を定め、これら能力の獲得とカリキュラム上で定める所定単位(教養科目36単位以上、専門科目88単位以上、合計124単位以上)の取得をもって、人材像の達成とみなし、学科により学士(経営情報科学)、学士(プロジェクトマネジメント)、学士(リスク科学)を授与する。 [社会システム科学部の学生が卒業時点において身に付けるべき能力] (1) 社会システムやマネジメント問題を分析・評価・管理するために必要な基礎的知識と、専門知識や技術を総合的に応用し、人的資源、物的資源、財政資源(資金)、技術・情

- 報資源を効果的に活用して、問題を解決する基礎能力を身につけている。
- (2) 問題解決に必要な専門知識や技術を修得するため、自ら継続的に学習することができる。
- (3) 国内外の技術的情報を収集・活用できるとともに、自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけている。
- (4) グループでの共同作業を適確に実行し、適切な協力関係をつくり上げてゆくコミュニケーションの基礎的能力を身につけている。
- (5) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
<https://chibatech.jp/faculty/#list7>）

（概要）

社会システム科学部のディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得させるために、以下に示す教育課程編成の基本方針、教育課程編成における5項目の具体的な方針、及び能力到達度の評価方針を定める。

〔教育課程編成の基本方針〕

厳選した少数の科目による教育課程編成を基本とし、履修科目の違いによらず、ディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得できるよう科目を配置する。また、教養科目群及び学科別専門科目群毎に学修・教育目標を設定し、各目標を達成するうえで必要な科目の体系と順次性をカリキュラムツリー及び科目ナンバリングにより明確化する。

〔教育課程編成における具体的方針〕

- (1) 基盤となる教養と基礎的な専門知識・技術を応用し、チームワークやリーダーシップを意識した問題解決ができるように、共通教養科目と専門基礎・専門科目を体系的に配置し、専門科目内にはグループ学習や学外インターンシップやフィールドワークなど、よりアクティブな行動を促す科目を配置する。
- (2) 自ら継続的・論理的に学習できるように、初年次教育及びキャリアデザイン科目を必修に位置付けて主体的に学ぶ手法を修得させ、後続する教養・専門科目群において、主体的な学びの場を提供する。
- (3) 論理的に表現・説明する能力を有し、日本語と英語によるコミュニケーションができるように、実践的な日本語・英語能力を高める科目を配置する。また、他者との建設的な討論や議論ができ、グローバルな環境でもプロジェクトを主導的に進めることができるよう、効果的な演習科目や一部学科では海外研修を行う科目を配置する。
- (4) グループによる共同作業により適切な問題解決が図れるよう、初期段階から課題探究セミナーやグループ演習を配置し、更に後続する専門科目内には効果的に演習科目・ゼミナールを配置して共同学習の場を設ける。
- (5) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、それを遵守できるように、技術者倫理に関する科目を配置する。

〔能力到達度の評価方針〕

ディプロマ・ポリシーで定めた各能力の修得については、以下の共通要件に加え、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。

- ・全ての必修科目を修得すること。
- ・コミュニケーションスキル分野で6単位以上を取得すること。
- ・国際理解分野の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から2単位以上を取得すること。
- ・人間・社会・自然の理解分野の学部指定科目群1から6単位以上、学部指定科目群2から4単位以上を取得すること。
- ・教養特別科目分野から1単位以上を取得すること。

・総合分野の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から2単位以上を取得すること。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://admission.chibatech.ac.jp/nyushi/policy/)
(概要) 社会システム科学部は、システム科学、経営工学、社会科学、情報工学等の分野横断的な学問領域で、本学の建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」人材を育成します。その人材の資質とは、社会システムやマネジメント問題を分析・評価・管理するために必要な基礎的知識と、専門知識や技術を総合的に応用し、人的資源、物的資源、財政資源（資金）、技術・情報資源を効果的に活用して問題を解決する基礎能力を身につけていることだと考えています。また、問題解決に必要な専門知識や技術を修得するため、自ら継続的に学習する姿勢を持つことも必要です。国内外の技術的情報を収集・活用するとともに、自らの思考・判断のプロセスを説明するためのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、グループでの共同作業を適確に実行し、協力関係をつくり上げていく能力もなくてはなりません。それらを形成したうえで、専門技術者として倫理観を持ち、社会的責任を果たせる人材を社会へと送り出します。 〈求める学生像〉 1. 高等学校段階までの基礎学力及び高い倫理観と豊かな人間性を身につけている人 2. 企業経営、組織運営、金融経済等の社会システムに興味を持ち、科学的手法を修得したい人 3. グローバルな視点から社会システムの変革に貢献することに意欲のある人 ※令和9年度入試は募集なし

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://chibatech.jp/disclosure/law.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4 人	－					4 人
工学部	－	67 人	23 人	0 人	11 人	0 人	101 人
創造工学部	－	38 人	6 人	0 人	2 人	0 人	46 人
先進工学部	－	34 人	8 人	0 人	1 人	0 人	43 人
情報変革科学部	－	28 人	12 人	0 人	6 人	0 人	46 人
未来変革科学部	－	21 人	5 人	0 人	5 人	0 人	31 人
情報科学部	－	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	1 人
社会システム科学部	－	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
デザイン＆サイエンス 研究科	－	5 人	2 人	0 人	1 人	0 人	8 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		245 人					245 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：https://www.lib.chibatech.ac.jp/cithp/KgApp					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD 委員会を中心として、授業アンケートに基づく全教員への授業点検書（義務化）の作成依頼と集計・分析、学内研修会やFD フォーラムを実施している。また、学生FD 委員を任命し、授業改善を主目的とした活動を行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	730 人	873 人	119.5%	2,890 人	3,491 人	120.7%	欠員の範囲	13 人
創造工学部	370 人	441 人	119.1%	1,480 人	1,731 人	116.9%	欠員の範囲	4 人
先進工学部	330 人	387 人	117.2%	1,350 人	1,619 人	119.9%	欠員の範囲	6 人
情報変革科学部	360 人	419 人	116.3%	1,080 人	1,256 人	116.2%	欠員の範囲	1 人
未来変革科学部	200 人	228 人	114.0%	600 人	690 人	115.0%	欠員の範囲	0 人
情報科学部	人	人	%	280 人	377 人	134.6%	欠員の範囲	0 人
社会システム科学部	人	人	%	280 人	377 人	134.6%	欠員の範囲	0 人
合計	1,990 人	2,348 人	117.9%	7,960 人	9,541 人	119.8%	欠員の範囲	24 人
（備考）・R6.4.1 に情報変革科学部、未来変革科学部と開設し、既設の情報科学部、社会システム科学部は募集停止している。 ・R7.4.1 に工学部宇宙・半導体工学科を開設し、既設の工学部機械電子創成工学科は募集を停止している。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	770 人 (100%)	232 人 (30.1%)	521 人 (67.7%)	17 人 (2.2%)
創造工学部	438 人 (100%)	68 人 (15.5%)	354 人 (80.8%)	16 人 (3.7%)
先進工学部	393 人 (100%)	95 人 (24.2%)	279 人 (71.0%)	19 人 (4.8%)
情報科学部	296 人 (100%)	54 人 (18.2%)	232 人 (78.4%)	10 人 (3.4%)
社会システム 科学部	295 人 (100%)	14 人 (4.7%)	268 人 (90.8%)	13 人 (4.4%)
合計	2192 人 (100%)	463 人 (21.1%)	1654 人 (75.5%)	75 人 (3.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 千葉工業大学大学院、TDK(株)、(株)アルファシステムズ、本田技研工業(株)、アルプスアルパイン(株)、スズキ(株)、富士電機(株)、千葉県庁 等 (備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 当該年度に開講する全科目について以下の項目を必須事項としたシラバスを作成している。また、作成にあたっては、全教員に「シラバス作成要領」を配付すると共に、執筆者以外の教員が観点別チェックを行う「第三者チェック」を行ったうえで、公開することとしている。 また、公開にあたっては、学生のみならず学外者も閲覧可能となるよう大学のホームページにシラバス検索ページを設置している。(作成完了は前年度2月末、公開は3月上旬) [シラバス作成上の必須項目] ・授業科目の目的(アクティブラーニングの要素が授業内容に含まれる場合には、該当項目にチェックする。例：問題解決型、グループワーク・ディスカッション、プレゼン、フィールドワーク、演習・実験・演習など)
--

・ 注意事項・学習アドバイス ・ 到達目標 ・ 評価基準（多面的な観点で評価されるよう評価項目と評価の割合を記入する。） ・ 各回の授業内容、事前事後学習内容（各回の授業内容には、課題や授業全体に対するフィードバックの方法も記入する。事前事後学習内容には授業外学習を行う内容と学習に要する時間数も記入する。） ※実務経験のある教員による授業科目については、「実務経験の種類と授業への活用状況」を記入要領に明記し、該当する場合には、必ずシラバスに記入するようにしている。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要） 建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」を基軸として、全学的な教育理念を設定すると共に、それらを踏まえて全学部・学科においてディプロマ・ポリシーを設定している。また、全学部のディプロマ・ポリシーには、「学生が卒業時点において身に付けるべき能力」を観点別に示すと共に、その前段ではカリキュラム上で定める所定単位として教養科目 35 単位以上、専門科目 89 単位以上の合計 124 単位以上（※）を修得することを定めている。更に、カリキュラム・ポリシーでは、ディプロマ・ポリシーに定める能力の到達度評価方針として、学部共通的に以下のとおり定めている。（これらに加えて、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。） ※1：創造工学部建築学科、都市環境工学科は教養科目 36 単位以上、専門科目 88 単位以上と定め、デザイン科学科は教養科目 36 単位以上、専門科目 84 単位以上と定めている。 ※2：先進工学部生命科学科は教養科目 36 単位以上、専門科目 88 単位以上と定めている。 ※3：情報科学部及び社会システム科学部（2024. 4. 1 から募集停止）は教養科目 36 単位以上、専門科目 88 単位以上と定めている。 〔能力達成度の評価方針〕 ・ 全ての必修科目を修得すること。 ・ コミュニケーションスキル分野で 6 単位以上を取得すること。 ・ 国際理解分野の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から 2 単位以上を取得すること。 ・ 人間・社会・自然の理解分野の学部指定科目群 1 から 6 単位以上、学部指定科目群 2 から 4 単位以上を取得すること。 ・ 教養特別科目分野から 1 単位以上を取得すること。 ・ 総合分野の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から 2 単位以上を取得すること。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	機械工学科	124 単位	有	40 単位
	宇宙・半導体工学科	124 単位	有	40 単位
	機械電子創成工学科 (2025. 4. 1 募集停止)	124 単位	有	40 単位
	先端材料工学科	124 単位	有	40 単位
	電気電子工学科	124 単位	有	40 単位
	情報通信システム 工学科	124 単位	有	40 単位
	応用化学科	124 単位	有	40 単位
創造工学部	建築学科	124 単位	有	40 単位
	都市環境工学科	124 単位	有	40 単位
	デザイン科学科	124 単位	有	40 単位
先進工学部	未来ロボティクス 学科	124 単位	有	40 単位

	生命科学科	124 単位	有	40 単位
	知能メディア工学科	124 単位	有	40 単位
情報変革科学部	情報工学科	124 単位	有	40 単位
	認知情報科学科	124 単位	有	40 単位
	高度応用情報科学科	124 単位	有	40 単位
未来変革科学部	デジタル変革科学科	124 単位	有	40 単位
	経営デザイン科学科	124 単位	有	40 単位
情報科学部 (2024. 4. 1 募集停止)	情報工学科	124 単位	有	40 単位
	情報ネットワーク 学科	124 単位	有	40 単位
社会システム科学部 (2024. 4. 1 募集停止)	経営情報科学科	124 単位	有	48 単位
	プロジェクトマネジ メント学科	124 単位	有	48 単位
	金融・経営リスク 科学科	124 単位	有	48 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：学生に所属学部・学年の GPA 分布と中央値を公表し、全体的な成績の位置付けが明確になるよう指導している。（学生のみ に公表している。）		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：学生生活アンケートの集計結果をホームページで公表し ている。 https://www.chibatech.ac.jp/support/support/gakuseiseikatu/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://chibatech.jp/disclosure/law.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部	全学科 1 年	1,390,000 円	250,000 円	200,000 円	【その他詳細】 休学時は授業料に替えて在籍料 100,000 円（半期毎）を徴収
	全学科 2 年	1,440,000 円	円	200,000 円	
	全学科 3 年	1,490,000 円	円	200,000 円	
	全学科 4 年	1,540,000 円	円	200,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 〔学生サポートセンター〕 理工系科目を学ぶ上で欠かせない数学・物理・化学・英語の基礎学力をサポートするため、専門講師が常駐する学生サポートセンターを開設し、高校のレベルの基礎学力、授業内容に関する質問、一層の学力アップなど、各個人のニーズに合わせた個別指導を行っている。※学生の利便性向上のため、オンラインでの学修支援も実施している。 開設状況：月から金 10 時から 18 時まで（新習志野キャンパス 10 号館 1 階・2 階） また、学生サポートセンターでの修学支援に加えて、上級生が履修の仕方や学修方法など、キャンパスライフに関わる様々な相談に応じる学生サポーター（SA）を設置している。 〔グローバルラウンジ〕 グローバル社会で求められる英語コミュニケーション力を高めるには、知識だけでなく実際に活用して体験することが重要であるため、外国人教員が常駐し、気軽な雰囲気の中で英語コミュニケーションを体験する自立学習施設「グローバルラウンジ」を開設している。 開設状況：月から金 10 時から 18 時まで（新習志野キャンパス 12 号館 2 階）
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要）指導教員と全学的組織である就職委員会および就職・進路支援部が三位一体となって進路支援を行っています。学生自身が主体性を持って自ら意思決定や判断をし、進路や職業選択が出来るよう、1 年次から 3 年次まで、必修科目として「キャリアデザイン」を開設している他、インターンシップを単位化し、キャリア教育の一環として位置付けています。また、対面とオンラインを融合させた各種セミナー、選考も兼ねた企業説明会の実施、質の高い進路の実現に向け、大手企業採用担当者の協力を得て、大手企業志望者向けの個別指導を実施するなど、多岐に渡る支援を行いました。内定を獲得したばかりの先輩学生に直接話を聞ける「学生アドバイザー」を配置し、多面からより相談しやすい環境も整えています。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） ・ケガの急病の応急処置、医療機関の紹介 ・学生相談室、カウンセラー設置、WEB 相談、学生サポートセンターの設置 ・教職員への学生支援講演会開催（年 1 回） ・障がい学生支援委員会設置、障がい学生支援規程、教職員対応マニュアル整備及び公開 ・要配慮の学生及び保護者と関係教職員との面談実施、配慮事項を確認後、学科、科目担当者等へ配慮要請 ・入学時にカウンセラー及び保健師による保護者相談会を実施 ・校医及び保健師との面談実施（健康相談含む） ・緊急時の医療機関受診付添い ・車いす専用駐車場、トイレ、エレベーター等の施設

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://chibatech.jp/disclosure/law.html>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

※任意様式 入学後の文理横断型の教育、複線的・多面的な学び、全学的なデータサイエンス教育等の総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取組

[入試科目の見直し]

本学の入試は様々な合否判定の方式を用意し、多様な学生を受け入れる工夫をしています。

令和8年度入試の一般選抜においては、大学入学共通テストの国語、数学①、数学②、理科、外国語を必須とし、地理歴史、公民、情報のうち高得点1科目を合否判定に採用する「5教科基準点型入学試験（共通テスト利用）」を実施し、多科目をバランスよく学習してきた受験生を受け入れることができました。

一方、令和9年度一般選抜では、本学試験の数学と大学入学共通テストの数学①、数学②、情報のうち高得点1科目を合否判定に採用するSC日程入学試験を新設します。本学試験の数学は、コンピュータを使って実施する（CBT方式）とし、理系科目を得意とする受験生の受け入れを目指します。またCBT方式は、本学が定めた全国各地の会場（テストセンター）で受験することができるため、受験生の負担軽減につながると考えています。

[入学後の文理横断型の教育、複線的・多面的な学びの取組み]

本学では一般教養教育においても、幅広い知識や汎用的技術の修得に留まらず、学部における専門教育との関わりを意識し、新たな視点で物事を捉えるための素養を身に付けることを目的している。そのため、教養科目群「人間・社会・自然の理解」分野では、以下のように学部ごとに関連科目を指定して運用する学部指定科目群の履修制度を導入している。

[学部指定科目群の履修制度概要]

- ・学部指定科目群1（1・2年次対象）・・・10科目中6科目を学部ごとに指定（各学部に所属の学生は、指定6科目から3科目を選択して履修する）
- ・学部指定科目群2（3・4年次対象）・・・6科目中4科目を学部ごとに指定（各学部に所属の学生は、指定4科目から2科目を選択して履修する）

さらに、この学部指定科目群1を基盤として、学修内容に沿った特定課題の解決方法を少人数グループで見出す「課題探究セミナー」や、より一層深く考えながら学ぶ「総合学際科目」を全学部共通の選択必修で開講しており、学部・学科の枠を超えた文理融合の学修を実践するとともに、3年次開講の実験・実習・ゼミナールに向けた有益な学修体系を構築している。

[全学的なデータサイエンス教育等の総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取組み]

本学では、技術者として必要な数理・データサイエンス・AIの基礎知識やスキルなどの素養を全入学生に身に付けるための学修プログラムとして、1年生前期に「初年次教育」と「数理・データサイエンス・AI入門」を必修科目で開講している。（2022年度に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラムの「リテラシーレベル」、2025年度に「応用基礎レベル」に認定されている。）特にAI基礎教育は、推進を図るべき項目に位置付けており、プログラムの構成科目である「数理・データサイエンス・AI入門（1年生前期必修）」の中では、AI分野の最先端研究を行っている「人工知能・ソフトウェア技術研究センター（通称：STAIR Lab）」の研究員が行う「AI入門授業」を全学部共通的に展開している。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F112310102431
学校名（〇〇大学 等）	千葉工業大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人千葉工業大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		2337人（1213）人	2319人（1179）人	2452人（ 1280）人
内 訳	第Ⅰ区分	443人	431人	
	（うち多子世帯）	（ 81人）	（ 72人）	
	第Ⅱ区分	220人	244人	
	（うち多子世帯）	（ 36人）	（ 31人）	
	第Ⅲ区分	170人	169人	
	（うち多子世帯）	（ 32人）	（ 25人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	440人	424人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	229人	187人	
	区分外（多子世帯）	835人	864人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－人（ －）人
合計（年間）				2460人（ 1284）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	39人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	一人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	21人	人	人
計	63人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	28人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	209人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	209人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。